

第91号 通巻16巻第6号 1997年3月31日 発行

守山市立埋蔵文化財センター **2**0775-85-4397

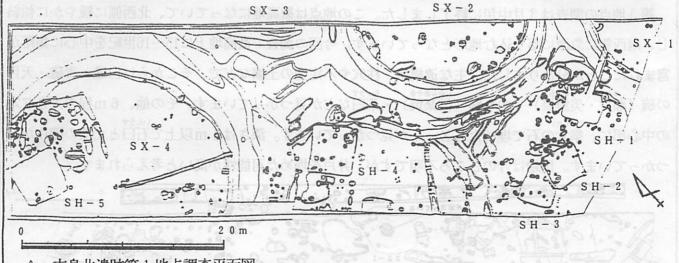
# ☆はじめに☆

寒かった冬もようやく終わりを告げ、木々にも新芽がでてきて、「もうすぐ春なんだ」という実感が わいてきます。平成8年度の乙貞も今号で終わりです。今回の乙貞は年度末の総括として、平成8年度 の発掘調査のまとめを掲載します。

## ☆発掘調査の成果☆

## 1、吉身北遺跡(第1地点)の調査

店舗建築に伴う第1地点の調査は、3月21日で終了しました。調査の結果、古墳跡4基、竪穴住居5棟、土壌、溝、柱穴多数を検出しました。古墳はSX-4が直径27mを測り最大で、次にSX-2が直径17m、SX-1が14mの規模と推定され、ともに円墳と考えられます。SX-3のみ一辺8m以上を測る方墳と考えられ、直角に曲がるコーナー部分を確認しました。これらの古墳は幅5~6mを測る周濠が巡り、濠の底から須恵器が出土していて、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと推定されます。これらの古墳が造られる前には集落が営まれていて、一辺3~5mを測る方形の竪穴住居が5棟見つかっています。これらの住居からは古い須恵器が出土している他、製塩土器や滑石の原石などが見つかっています。出土遺物からみて5世紀中頃から後半にかけて集落が営まれていたとみられ、古墳の造営を契機に第2地点周辺に住居が移動したものと見られます。(伴野)



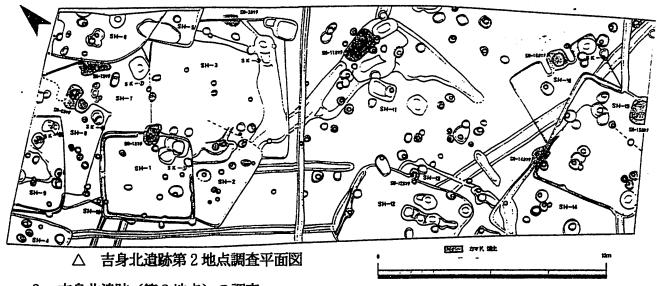
△ 吉身北遺跡第1地点調査平面図

吉身北遺跡 (第2地点) の調査

勝部町字松塚で、店舗付共同住宅建築に先立ち約270 ㎡を対象に1月17日~3月12日の期間、調査を

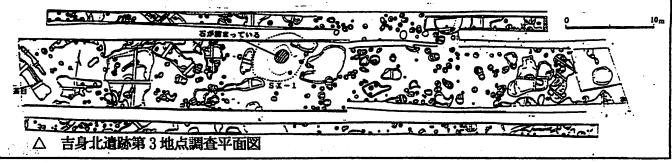
行いました。その結果、古墳時代の竪穴住居・土壙や平安時代の掘立柱建物等を検出しました。

古墳時代の竪穴住居は部分的に検出したものも含め、16棟見つかりました。それぞれが何回も重複していて、 $SH-1\sim100010$ 棟と $SH-12\sim16005$ 棟が重なりあって検出されました。竪穴住居の規模は一辺  $4\sim6$  mを測ります。竪穴住居には、住居の北辺か東辺のほぼ中央にカマドが設けられたものがあり、その右側には貯蔵穴と考えられる土壙が見つかっています。竪穴住居からは土師器、須恵器やその他、滑石製の臼玉・紡錘車・チップなどが出土し、ここで製品を作っていた可能性があります。住居の時期は、SH-3は 6世紀初め、SH-12は 7世紀中頃と考えられ、約150年の間この場所で継続的に集落が営まれていたと推定されます。第 1 地点や道路敷地にかけて約40棟の住居が見つかっていて、狭い範囲に何度も竪穴住居が建て替えられたことが分かりました。また、JR守山駅周辺でも竪穴住居が多く見つかっていて、吉身南遺跡と一体となる古墳時代の大集落がこの地に想定されます。(中村)

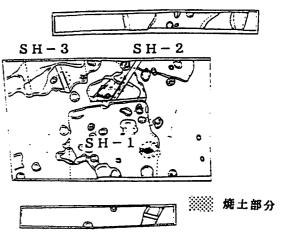


### 3、吉身北遺跡(第3地点)の調査

第3地点の調査は3月中旬に終了しました。この地点は微高地になっていて、北西側に緩やかに傾斜し、南西側に急激に落ち込む地形となっています。今回の調査で微高地上に15~16世紀を中心に集落が営まれたことが分かりました。主な遺構は、柱穴や不定型の土壌などで、そこからは白磁・青磁・天目の硫(瀬戸・美濃焼)・すり鉢(信楽焼)・茶臼などが見つかっています。その他、6 m程の大きな穴の中心部に、拳大の石で埋めたSX-1が見つかっています。深さは1 m以上で石臼と土器の破片が見つかっています。用途は今のところ不明ですが、井戸を埋めた可能性が高いと考えられます。



また、調査区の西端では下層に古墳時代の生活面があり 竪穴住居が3棟見つかりました。このうち、SH-1の残りが一番よく、焼土部分はカマドと考えられ石製の支脚が立ったままの状態でみつかっています。支脚の上には甕の破片が散乱していました。見つかった土器から3棟とも6世紀前半の竪穴住居とみられます。このことから、吉身北遺跡の古墳時代の集落が、この地点まで続いていることがわかります。(藤原)



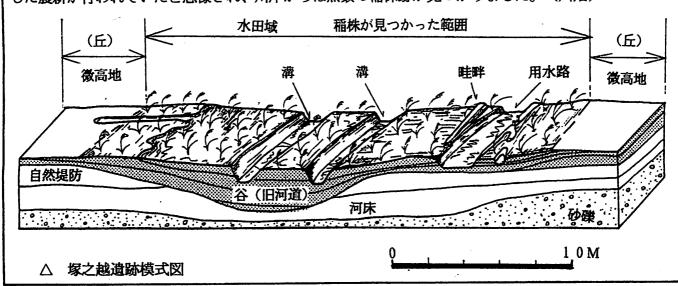
△ 吉身北遺跡第3地点平面図(下層)

## 4、寺中遺跡の調査

矢島町字東坊の畑地約265 ㎡を個人住宅建築に先立ち発掘調査を行いました。畑地に2本のトレンチ (土層を観察するために掘る穴)を設けて、遺跡の埋もれ方を調べました。その結果、溝が2条検出され(幅30㎝、深さ20㎝程)、出土した土器から弥生時代中期前半の時期と考えられます。(川畑)

### 5、塚之越遺跡(第12次)の調査

古高町字水押の水田地 (800 ㎡) を宅地造成工事に先立って発掘調査を行いました。成果は、丘(微高地)の上と谷(旧河道)の2つに分けることができます。まず、丘の上では室町時代の掘立柱建物1棟、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓3基を検出しました。方形周溝墓は、台状部の一辺が4m程の比較的小規模なものが連なる形で検出されました。谷の部分の調査では、古い時代(縄文時代か?)に流れていた川が、弥生時代、古墳時代を経て少しづつ埋もれていったことがわかりました。古墳時代の前期には、その低湿地に灌漑用の水路が掘られ水田として利用されていました。この水田には、水を張るための畦がほとんど確認されませんでしたが、川岸の平らな部分(高水敷)を利用した農耕が行われていたと想像され、川岸からは無数の箱株跡が見つかりました。(川畑)



## 6、下之郷遺跡(第25次)の調査

下之郷町集落の東南端で、道路側溝の敷設に伴う調査を3月6・7日の両日に実施しました。幅0.7m 延20m の調査範囲からは、土壙・ピットを検出しましたが、全体を知ることはできませんでした。遺構からは翌や高坏などの遺物が出土し、弥生時代中期後半と考えられます。(畑本)

#### 7、二ノ畦・横枕遺跡

吉身3丁目字橋本で、店舗併用共同住宅建築に伴い調査を行いました。約500 ㎡の調査地で、土壙・溝、ピットなどを検出しました。しかし、遺構の多くは昭和28年まであったといわれる溝によってこわされています。土壙は不定型で、直径が約5 mを測り、中央に向かって深くなるものがあり、住居の可能性もあります。溝は幅4 m、1.5mを測り、徐々に深くなっています。平成3年度に道路を挟んだ南側の調査によって大溝が検出されていて、今回の溝はその続きにあたる可能性があります。(畑本)

### 8、吉身西遺跡(第74次)の調査

8月末に開始した調査も3月末をもって終了しました。今回は第3調査区の竪穴住居群についてお知らせしたいと思いますが、その前に前号で触れた大型掘立柱建物について訂正があります。この建物の時期は柱穴、掘り方から出土した土器から、8世紀第2四半期以前に建てられたものと考えられます。この掘立柱建物の南に存在するSD-1は、出土土器から9世紀前半以前に埋まったと見られます。

竪穴住居群は4棟が切り合った状態で検出しました。最も新しい住居は住居の北辺にカマドを有し、床面から砥石が出土しています。この砥石は紐を通すための穴があいていて、携帯して使用したものと思われます。また埋土中よりも滑石製品やチップが大量に出土し、カマドの脇には滑石製臼玉の未製品やチップが入ったピットがあり、この住居内で玉を造っていたと思われます。時期としては6世紀前半頃と考えられます。この住居に切られる形で2棟の竪穴住居が存在しますが、床面までの深さが5㎝以下と残りが悪く、正確な時期は不明ですが、内1棟の床面には滑石製品の未製品・チップなどが大量に見られ、この住居の特殊性が伺われます。最も古い住居は平面形が五角形を呈するもので、中央には炉と思われる摺り鉢状のピットがあり、主柱穴・周壁溝も一部分ですが確認しています。出土した土器から弥生時代後期の竪穴住居とみられます。

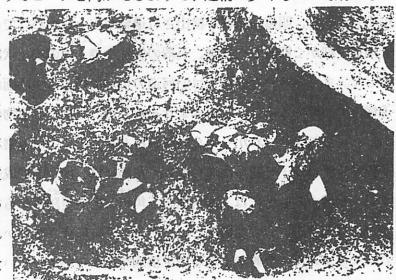
今回の調査では狭い面積ながら住居が多く検出されました。周辺のこれまでの調査と併せて考えるとこの周辺では、弥生時代後期から4世紀代まで数棟の竪穴住居が転々と移動していたと考えられます。それは6世紀より9世紀代までも同様にいえることですが、5世紀代に限ってそれに該当する住居がみつかっていません。しかし、今回の調査では5世紀代の古墳の周溝が見つかっていて、金森東遺跡の古墳群に連なるものとみられます。これまで居住域であった場所が5世紀代に墓域として利用され、さらに6世紀代になって居住域と変化したものと想定されます。このような目まぐるしい変化の背景には何があるのか、今後も検討を要する課題といえます。(山中)

# 

と見られます。

小島町字三ノ坪で進めてきた発掘調査も3月末で終了しました。調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居、掘立柱建物、井戸、土壙などの多くの遺構と大量の遺物が見つかりました。今回の調査成果で特に注目されるのは韓式土器が出土した竪穴住居の存在です。この住居は一辺が3.5 mと小型で、北辺中央のカマド状施設の周辺から韓式土器を含む土器が集中して出土しました。阿比留遺跡ではこの住居の時期(5世紀前半)が集落の開始時期と考えられ、集落の開始にあたって渡来人の関与があったことが想像されます。集落はその後、6世紀代にかけてピークを向かえるようで、遺構の多くもこの時期のもの

この他旧河道から、大量の土器と木器が出土しました。木器は櫂、下駄、横槌、営、動、槽(容器)、建築部材、形代(刀形、陽物など)があり、中でも刀形の数量が多いことが注目されます。これらは旧河道の東岸に大量の土器とともに30m以上にわたり出土し、河岸で何らかの祭祀が行われていたと考えられます。遺物の年代は6世



# 平成8年度 市内適跡の発掘調査の成果と課題

平成8年度も開発に追われるように、市内で40件以上の発掘調査が行われました。それは、別表に掲げる通りですが、ここではその成果について時代別に総括し、課題を確認して今後の調査に生かしていきたいと思います。小さな調査の積み重ねが、豊かな歴史の復元につながると考えるからです。

## 1、縄文時代

平成8年度の調査で縄文時代に係わる事例は、下長遺跡、塚之越遺跡、吉身西遺跡、八ノ坪遺跡の4例でした。しかし、いずれも弥生や古墳時代の生活の基盤となる地山から、焼土塊や炭に伴って土器が出土していて、明確な遺構が検出され遺物が出土したわけではありません。塚之越遺跡では、遺物の出土地点を細かく観察した結果、石器の剝片や焼土塊の出土状況から2つの生活面があることが想定されました。また、八ノ坪遺跡では旧河道の自然堤防上に生活面が存在するとみられますが、やはり明確な遺構の形を押さえることはできませんでした。しかし、遺物の出土状況からみて流れ込んだものではないと考えられます。わかりにくい遺構があり、その中に遺物が含まれているものと考えられます。

縄文時代の様子を明らかにしていくためには、地形の形成過程を研究の対象とする必要があります。
平野を構成する地形には、扇状地や三角州、自然堤防帯からなる沖積平野と洪積世段丘(洪積台地)などがありますが、この地形がいつ、どのように形成されたかということを考慮しながら調査を行わなければなりません。複雑な土地環境を積極的に明らかにしていく姿勢をもつことによって、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての水稲農耕の実態を解明することにつながるものと考えます。さらに、地形の細かな分析を行いながら、明瞭に確認できない遺構の形を摑む方法を模索していく必要があります。

### 2、弥生時代

1.1

今年度は、別表の通り市内12遺跡で弥生時代の竪穴住居跡、方形周溝墓、溝などの遺構が見つかり、多くの遺物が出土しました。中期では、下之郷遺跡で3条の並行する環濠が検出され、内側の溝に土橋が作られ、出入り口のあることがわかりました。さらにその内側に、門の跡や高床の掘立柱建物が見つかりました。この周辺からは磨製や打製の石鏃や石剣が出土したほか、濠の中からは弓や銅剣が出土していて、弥生時代中期の社会的緊張状態を示していると予想されました。下之郷遺跡では、環濠の内部からは、竪穴住居が見つからず柱穴が集中して検出されることから、掘立柱建物を中心とするムラであることが想定されていましたが、今回の調査でも3棟の掘立柱建物が見つかり、そのことを裏付けすることが想定されていましたが、今回の調査でも3棟の掘立柱建物が見つかり、み生時代の集落を取り巻く環境を復原する上で貴重なデータを得ることができました。

伊勢遺跡では集落の北西約20.0mの地点で、弥生時代後期の方形周溝墓1基、中期末の竪穴住居1棟が検出されました。伊勢遺跡の出現以前に集落が存在していたこと、遺跡の北方に墓域が広がっていることが確認されたわけです。さらに大洲地区では幅7m、深さ2mを測る大溝が検出され、伊勢遺跡

が位置する丘陵地を切断する大規模な環濠が存在することを確認することができました。

吉身西遺跡では後期の竪穴住居が検出され、平面形は五角形をした住居でした。伊勢遺跡でも五角形の竪穴住居が検出されました。ともに弥生時代後期の中頃の住居であり、円形から方形の住居へ移行する時期に出現する傾向が窺われます。守山市では弥生時代の遺跡が多く、これまでの調査の成果をふまえて、遺跡の広がりや性格を検討していく必要があります。

## 3、古墳時代

集落遺跡の調査では、下長遺跡で古墳時代前期の竪穴住居や土壙などが見つかっていて、遺構密度の高い遺跡であることを追認しました。古墳時代中期では、阿比留遺跡や吉身北遺跡において、5世紀代に入る遺物や竪穴住居などがみつかっています。その遺物には須恵器や、韓式系土器と呼ばれる朝鮮半島につながる珍しい土器が出土しています。後期の集落の調査では、吉身西遺跡や吉身北遺跡、金森東遺跡において竪穴住居や掘立柱建物などが発見されました。特に吉身西遺跡では、竪穴住居から掘立柱建物への変遷が辿れ、古墳時代後期のなかで住居形態が変化することが予想されました。また、今年度の調査で、弥生時代から古墳時代前期にかけて継続する遺跡と古墳時代中期および後期から集落が形成される遺跡のあることがわかってきています。5世紀代を境に、集落の景観が大きく変わるようです。

墓跡では、古墳時代前期の方形周溝墓群が酒寺遺跡などで発見されました。古墳時代前期の方形周溝墓群は、弥生時代から継続する墓域で見つかることが多く、その一角に前方後方周溝墓が営まれることが多いようです。しかし、4世紀中頃以降には方形周溝墓は造られなくなり、墓の造営は中断するようです。しかし5世紀代になると、新たに形成された集落の近くに方墳や円墳などが造営されていて、吉身北遺跡などはその好例といえるでしょう。これらの古墳は、5世紀末から6世紀前半にかけて造営されていて、10~30基前後で墓域が構成されています。しかし、群集墳が形成される6世紀半ば以降には平野部に群集する古墳も造営されなくなります。

生産にかかわる調査事例では、塚之越遺跡があげられます。野洲川流域には無数の自然流路が存在したと考えられますが、これらは4世紀の後半以降、急速に埋まりはじめます。その原因については今後の課題ですが、その湿地部分を利用して水田の経営が行われています。自然流路の両岸に、灌漑用とみられる溝が掘削されていて、低い部分に畦が検出される場合があります。埋没流路の水田利用には、自然環境を巧みに利用した様々なケースが予想され、目的意識をもった調査が期待されます。さらに、吉身北、吉身西、金森東遺跡などの5~6世紀の竪穴住居からは、滑石と呼ばれる柔らかい緑色の石を使用し製作された臼玉や管玉、有孔円盤などが出土しました。製品の他に、滑石の原石や未製品、さらにチップと呼ばれる製作途中で生まれる滑石の破片が見つかっていて、これらの遺跡で玉作りが行われていたことを示しています。野洲川左岸の古墳時代中期から後期にかけての集落では、滑石製の玉作りが盛んに行われていて、支配関係を含む社会構造の問題を考える上で重要な成果といえます。

さらに、吉身北遺跡では滑石とともに製塩土器が出土しています。滑石と製塩土器が同じ遺跡からみつかることが多く、物資の流通経路を考える上で示唆的な出土傾向といえるでしょう。金森東遺跡ではカマドの基底部を精査したところ、焼けた土や炭がつまった小さな穴が見つかり、粘土でカマドを作るための骨組みのあったことが推測されました。調査現場での意識が、重要な問題提起につながる例として特筆されます。

## 4、奈良時代~平安時代

奈良時代で特筆すべき調査事例は、二ノ畦遺跡と赤野井遺跡をあげることができます。二ノ畦遺跡で は掘立柱建物が24棟(総柱建物7棟・側柱建物15棟・その他2棟)、井戸、土壙等が見つかりまし た。検出された建物群は、周囲を幅約1mの溝で方形に区画された中にありました。内部にあった建物 は、軒先を同じ方向に揃え整然と配置されています。また、建物間や溝と建物の距離、柱穴間の寸法な どに規則性があり、定まった尺度を使用していると見られます。さらに外周にあたる溝から、当時の主 要幹線道路にあたる東山道(現中山道)までの距離もちょうど2町にあたることなどから、かなり計画 的に造営された建物群であるということができます。出土遺物に料理につかう土器(甕・鍋)が少ない ことを考えると、奈良時代の農村(一般的な集落)ではなく古代の役所ともいう性格の建物群ではなか ったかと推測されます。この遺跡の周囲には、西側に式内社の『馬路石辺神社』が、南側には古代寺院 『益須寺』が、東側には『東山道』が通り、そして北側には野洲川が位置していて、奈良時代には人の 往来が盛んで物資流通の拠点になるような場所といえます。その立地からみて、郡衙の出先機関・郷衙 ・野洲川の渡しを管理する施設などがこの遺跡の性格として考えられます。赤野井遺跡では、掘立柱建 物や井戸、溝が検出され、墨書土器や瓦が多数出土することから、一般の農村集落ではなく官衙施設が 想定されます。同遺跡は、古代の野洲郡にあったといわれている明見郷にあたる可能性があります。さ らに、吉身西遺跡で見つかった3間×6間 (7.2×13.4m)を中心とする大型の建物ですが、今号の報告 にあるように8世紀代の建物であることがわかりました。この遺跡では、古墳時代後期から継続的に集 落が営まれていて、8世紀前半代に大型の掘立柱建物が出現しています。規模も大きく、複数の建物か ら構成されていて、建物群の性格が問題となります。

### 5、中世および近世

中・近世は、古高城遺跡と吉身北遺跡の調査成果を中心にまとめ、今後の課題としたい思います。

古高城遺跡は現在の古高町集落に重複していて、『南屋敷』などの小字名の残る地域を約1,900 ㎡を対象に調査を実施しました。その結果、濠と溝を2重に巡らせた区画内部から、柱穴や土壙などが検出され、多量の瓦や摺鉢などの土器、銅製の仏具・銅銭・石仏・五輪塔・礎石などが出土しました。瓦には、『福林寺』の文字がはいった軒丸瓦が出土していて、何らかの仏教施設があったものと想定されます。遺物は区画内部の土壙から出土していて、建物の廃材を穴に埋めて処理した結果とみられます。

吉身北遺跡の調査は、本号でも紹介している通り、多数の柱穴や土壙などが検出され、陶磁器などが 出土しました。これらの出土遺物から、15~16世紀を中心とした集落がこの地域に存在することが判明 しました。これまで、吉身北遺跡は古墳時代後期を中心にした集落遺跡と考えられてきましたが、今回 の調査で中世末期の遺構が存在することが初めて確認されたわけです。約1町四方の高まりが今も残っ ていて、その中に屋敷が営まれていたとみられます。

この2件の調査成果をみると、現在の集落の内部あるいは周辺地に位置していて、古高城遺跡では「 南屋敷」、吉身北遺跡では「北十三」という小字名が残っていて、その土地から中世末の集落が発見さ れたわけです。古高城遺跡では「むかし有力者が住居を構えていた」と言い伝えられていました。

中・近世の遺跡の場合、原始・古代のように柱を直接立てたり、竪穴住居のように直接掘り込んだり ませきた。 する住居と異なり、小規模な礎石建ちの建物などがあると想定され痕跡が残りづらいことがあります。 しかし、文献に残っていたり、地元で口伝されている場合があり、古文書や伝承資料によって考古資料 を検証できる可能性があり、今後の調査にあたっても注意を払っていきたいと思います。

### 6、普及・啓発ほか

職員の増員で、今年度も多数の遺跡発掘調査を実施しましたが、ここでは来年度に向けて課題を確認 していきたいと思います。

平成8年度は、下之郷遺跡関係で1回、二ノ畦遺跡で2回、吉身西・吉身北遺跡で1回づつ現地説明会を実施しました。調査期間の都合で、貴重な発見のあった幾つかの遺跡ではその機会を持つことができませんでした。遺跡調査の成果の公表については積極的に行っていると思いますが、情報の提供やその方法についてはベストであるとは思っていないので、今後そのあり方について機会のあるごとに検討を加えたいと思います。年に1回は、職員全員が説明会を実施できるよう進めたいものです。埋蔵文化財センターでは、年間6回の歴史入門講座を実施しました。参加者が、平均30名を越えるようになり盛況となっています。参加者の質問も、学問的に重要な内容に及んでいて、講師を勤めている職員も研鑽をさらに積んでいかなければならないと痛感します。遺跡は1度しか調査できないという点で、開発と同様に破壊行為でもあります。開発に免罪符を与えるだけの調査にならないよう歴史的な評価を行い、砂等を入れ保存策をとり、情報公開を積極的に行うよう努めたいものです。

11月には特別展「弥生時代に戦争があった」~下之郷遺跡の調査から~を開催しました。今年行われた下之郷遺跡の調査では、多数の武器類が環濠およびその周辺から出土していて、速報展の性格も備えていました。これに合わせて、環濠から採取した土から、弥生時代の植物を探す体験学習を企画しました。新鮮な情報や話題を中心に、特別展や体験学習などが今後も企画できればと思います。今年度の調査では滑石の玉生産を行った遺跡調査が実施され、現場の土をたくさん持ちかえっています。その中から滑石の玉類やチップを探し、玉生産の意義を考える体験学習会を企画したいと思っています。

	<u>ञ</u>	·成8年度 ~	产山市内设	<b>助発掘調</b>	查一览表		
	遺跡名	所在地	調查期間	調査原因	時代	面積立	掲載号
1	赤野井遺跡	十二里町字畑合	E8 · 10~11	道路改良	古墳前期~平安後期	250	89
2	阿比留遺跡	小島町字三ノ坪	H8 · 11~H9 · 3	宅地造成	古墳後期	3000	90
3	金森東遺跡12次	守山3丁目字太田他	H8・10~継続	土地区画整理	弥生~古墳	3000	90
4	伊勢・大洲遺跡	阿村町字上大洲	B8 ⋅ 5 ~7	宅地造成	<b>弥生中期~古墳後期</b>	370	86 • 87
5	伊勢遺跡	二町町字北上代	B8 • 7 ~8	宅地造成	<u>弥生中期</u>	336	88
6	伊勢遺跡36次	伊勢町字大将軍	B8 • 11	個人住宅	弥生後期~近世	400	90
7	伊勢遺跡37次	伊勢町字南代	H8 • 11	共同住宅	古墳前期	174	90
8	伊勢遺跡38次	伊勢町字西浦	H8 • 11 12	共同住宅	古墳前期~鎌倉	117	90
9	伊勢遺跡39次		R9 • 2	個人住宅	<b>弥生後期</b>	80	30
10		伊勢町字伊勢里	H8 • 4 ~5	宅地造成	弥生後期~近世	743	86 - 87
	酒寺遺跡37次	播磨田町字松田			古墳後期	148	87
11	酒寺遺跡38次	播磨田町字松田	H8 • 5	店舗建築			87
12	酒寺遺跡39次	播磨田町字松田	H8 • 6	宅地造成	弥生後期	485	
13	酒寺遺跡40次	下之經町字篠	H8 • 9	共同住宅	弥生後期~古墳後期	168	88
14	酒寺遺跡41次	播磨田町字下駒	H8 • 10	共同住宅	<b>弥生後期~古墳前期</b>	200	89
15		播磨田町字下駒	H8 • 10	個人住宅	弥生後期~古墳前期	100	89
17	寺中遺跡	矢島町字東坊	H9 • 1	個人住宅	弥生中期	265	91
11	下長遺跡16次	古高町字北八重	H8 · 8 ~10	倉庫・焼却炉	縄文中期~古墳前期	800	88
18	下長迪納17次	古高町字浮	H8・10~継続	工場団地	<b>弥生~古墳前期</b>	4000	89 • 90
19	下之鄉遺跡23次	下之舞町字橋本	H8 • 4 ~7	宅地造成	<b>弥生中期</b>	1200	86 • 87
20	下之經遺跡24次	下之舞町字見田	<b>H9 • 1</b>	農用倉庫	弥生中期	110	90
21	下之網道跡25次	下之舞町字北黒田	<b>E9 • 3</b>	道路側溝	弥生中期	14	91
22	女天神遺跡	今宿町字西ノ浦ノ四	B8 • 7 ~8	小学校プール建設	古墳後期~中世	800	
23	塚之越遺跡11次	古高町字北林	H7 • 10~H9 • 4	宅地造成	縄文~中世	18000	86~90
24	塚之越遺跡12次	古高町字水押	₩9 • 2 ~3	宅地造成	縄文~中世	800	91
25	二ノ畦道跡9次	吉身 4 丁目字上田	H8 • 2 ∼H9 • 2	宅地造成	奈良~平安前期	14473	88~90
26	二ノ畦・機枕遺跡	吉身3丁目字橋本	H9 · 2 ~3	店舗併用共同住宅	弥生中期	216	91
27	八ノ坪遺跡	播磨田町京法花手	B8 • 4 ~5	共同住宅	古墳	380	86
28	八ノ坪遺跡	播磨田町字八ノ坪	H8 · 4 ~7	店舗建築	古墳~中世	500	86 • 87
29	八人坪遺跡	播磨田町字塚越	B8 ⋅ 6 ~10	共同住宅	縄文中期~古墳	2000	87~89
30	播磨田西遊跡	下之與町字尾中	H8 • 6	店舗建築	平安	240	87
31	古高遺跡10次		H8 • 7	病院建設	中世	300	87
-		古高町字上尾中		寮	弥生~中世	600	88 • 89
32	古高遺跡11次	<b>大門字大中</b>	H8 • 7 ∼10	宅地造成	奈良~近世	1400	86 • 87
33	古高城遺跡	<b>焰魔堂町字円前</b>	IB • 4 ~5				87 • 88
34	古高城遺跡	古高町字南屋敷	H8 · 6 ~9	宅地造成	中世~近世	1900	
_	益須寺関連遺跡	吉身3丁目字堂ノ北原	R8 • 6 ~7	店舗併用共同住宅		400	87
_	益須寺関連道跡	吉身3丁目字堂ノ北原	H8 • 8	共同住宅	古墳	144	88
	吉身北遠跡	勝部町字橋口・北十三	H8 • 10~H9 • 3	都市計画道路	古墳後期	3600	89~91
	吉身北遺跡	勝部町字松塚	H8 • 12~H9 • 3	店舗建築	古墳後期	1200	90 • 91
39	吉身北遺跡	勝部町字松塚	H9 · 1 ~H9 · 3	店舗併用共同住宅		270	91
40	吉身西遗跡70次	守山4丁目字上苑間塚	B8. • 5 ~6	市民病院建築	縄文~古墳後期	600	87
41	吉身西遺跡72次	下之類町字皆廢	188 • 4 ∼5	共同住宅	弥生~中世	300	86 • 87
42	吉身西遺跡73次	守山 4 丁目字南高田	H8 • 7	共同住宅	弥生中期~古墳後期	230	88
43	吉身西遺跡74次	守山5丁目字下目田	H8 · 8 ~H9 · 3	河川改修	弥生後期~平安前期	2570	88~91
44		守山5丁目字仁王ヶ町	H8 • 9	店舗建築	弥生後期~古墳前期	165	88
	吉身西遺跡76次	守山5丁目字仁王ヶ町	H8 • 10	共同住宅	<b>弥生後期~古墳前期</b>	400	89
46		守山 4 丁目字南高田	B8 • 10	個人住宅	古墳前期	250	89
47		守山4丁目字南高田	H8 • 10	個人住宅	<b>縄文後期~近世</b>	231	89
48	1 de montado (n. l a. a. l.	守山6丁目字高ノ後	H8 • 12	個人住宅	古墳後期~近世	200	90
49	吉身西遺跡80次	守山4丁目字上岩賀	H8 • 12	共同住宅	<u>弥生後期~中世</u>	220	90
50			H9 • 1	宅地造成	近世	300	- 30
<u>~</u>		守山4丁目字南高田					<u> </u>

 守山4丁目字上岩質
 BB・12
 共同住宅
 弥生後期~中世
 220

 守山4丁目字南高田
 BB・1
 宅地造成
 近世
 300

 ※面積は調査面積を示す。但し23、25は平成7年度からの構続であるため、開発面積を示す。